

## 進路を選択する

生徒の皆さん、高校後の進路はどうする予定ですか。大学・短大、専門学校への進学、就職なのか、それとも進路未定なのか。まずは、将来やりたいことがあるのかないのかで、次の進路が決まってくると思います。現在、日本にはいくつの職業があると思いますか。厚生労働省編職業分類 2011年改訂版では17,209種類の職業が記載されています。大学や専門学校に行っても、いつかは仕事につかなくてははいけません。そういう点では進学する場合、その先の就職を考えて進路選択する必要があります。高校から勤められる職業もありますが、大学を出ないと就職できない職業もあり、また、資格や実務経験がないと勤めることのできない職業もあります。

筆者は高校時代、定時制高校に通っていましたが、昼は作業場、夜は学校という生活のなか、高校時代に高校教員、大学教員、マスコミ関係などの職業に就きたいと漠然と考えていました。

本当は現実の昼間の生活から抜け出したかったのだと思います。そのために、何としても大学に進学しなくてはいけないと思うようになっていました。

大学の経済学部へ進学を選んだのは、一応、将来、税理士や公認会計士になりたいと思ったこともあり、簿記や税法の資格は取得していましたが、しかし、どうしても経済学だけは独学では理解できませんでした。そこで経済学を大学で学びたいと思ったのです。明治学院大学を選んだのは、当時の明治学院大学経済学部では、社会科、商業科、中学校の職業科(現在は存在しない教科)、外国語(中国語)、宗教科という教員免許状が取得できる学校だったのです。これほど多くの教員免許状を取得できる大学は、国立大学の教育学部を除くと他にありませんでした。

いまから40年前のことなのでインターネットなどなく、進学情報誌の『蛍雪時代』や大学のパンフレットを見ながら学校選びをしたのです。いまや情報が溢れていますから、逆に仕事や学校を絞るのに大変だと思います。よく家電販売店や紳士服販売店の売り手セールスマンが、来店したお客さんの要望を聞いて2~3品の商品しか勧めないと話を聞いたことがあります。それは、あまり多くの商品を勧めると、結局、お客さんは商品を選ぶことができず帰ってしまうケースが多いそうです。それと同じで現在は、進路情報が多すぎて選択できなくなってしまう。

自らの進路が考えられていない人は、まず、自分の適性や、興味、関心、得

意科目などから、進路を考えてみるとよいでしょう。

高校を選ぶとき、どのようにして本校を選びましたか。大学・短大、専門学校を選ぶとき、やはり進路情報誌、進学相談会、学校見学会などを利用して情報を収集してください。進学相談会や学校見学会は、遅くとも3年次の5月・6月迄に行っておいた方がよいでしょう。特に大学に進学を考えている人は、その後、受験勉強に励まなくてははいけません。筆者が厚木高校、湘南高校に勤めていた時、よく2年の春休み、夏休みに学割りを申請する生徒の中で、申請理由に地方の旧帝国大学系の大学見学と記されたものが何枚かありました。

横浜新都市ホールや新宿 NS ビル等で開催される大学や専門学校の進学相談会には多くの学校ブースが出ていますが、あの相談会に参加している学校は、進学相談会を企画した会社に参加料を支払っているのです、自分の行きたい学校があるとは限りません。例えば、横浜国立大学、横浜市立大学などの国公立大学は限られた相談会にしか出席しません。また、早稲田大学や慶応大学なども同様です。高校の公私合同説明会等で経験したと思いますが、進学相談会に何となく行くのでは意味がありません。多くの学校のチラシ、パンフレットをもらってくるだけになってしまいます。やはり、進学する学校や学部学科などを事前に調べておき、そして同じ学部学科を持っている学校を何校か比較する方がよいと思います。事前に調べたことを確認する気で行くことが必要です。

さらに、進学相談会で対応してくれる人は、多くの学校では教員ではなく、広報担当者ですので、学部学科の詳細なことは分からないことがあります。ですから最終的には大学、短大、専門学校の学校見学会に行くことを勧めます。

## 学校防犯研修会が実施される！



平成 31 年 2 月、横浜南警察署の警察官を招請し、教員対象の学校防犯研修会を開催しました。

盗難、SNS に関する問題、盗撮など、高校生が被害に遭う事件や、その被害に遭った時の対応などについて講演していただきました。特に、盗難や盗撮については初期対応が大切と言われ、被害に遭った時は、迅速に警察に連絡してくださいということでした。盗撮や痴漢などの被害は、警察に早く通報すれば犯人逮捕や容疑者確保に繋がるケースが格段に高くなるそうです。校外で犯罪や事故等の被害や被害に巻き込まれそうになったら、まずは警察に連絡してください。保護者や学校には、その後に、落ち着いてから連絡を入れても遅くありませんと話されていました。